

中一国語

長文読解入門 第四回 要約②

講師：羽場 雅希

◆ 今日の授業で学ぶこと

- ・ 要約（復習）
- ・ 一文を要約するポイント

◆ 要約（復習）

〈例題〉 次の各文を要約しなさい。

(1) この専門学校かの製菓クラスかの生徒は、男子も女子も器用な子も不器用な子もみんな、団子、もち、あられ、羊羹かんなどの和菓子を
作ることができる。

(2) 京都では、葵祭あおい、祇園祭ぎおん、時代祭さいなど、多
くのお祭りが今年も開催さいされる。

◆ 一文を要約するポイント
要約＝重要な点を短くまとめること。

- ①主語（主部）と述語（述部）を見抜く^ぬ。
- ②その文で言いたいことを伝えるために必要な要素を付け加える。

※具体例は省く／まとめる。

次の文章を読んで、後の問いに答えなさい。
なお、**1**～**4**は、それぞれの段落の番号を表している。

1 愛知万博では、生分解性プラスチックでできた食器やゴミ袋ぶくろを使用したことよつて、七百二十トン分の二酸化炭素の排出はいを削減さくできたという。何度も使い回せる食器で余分なゴミを減らす、二酸化炭素を出さないような製品に変える、などの技術のおかげである。環境かんとの共生を謳うたった愛知万博らしい成果であつたと言える。

2 しかし、ふと疑問に思うこともある。道徳が技術に肩代かたわりされていくことでよいのだろうか、という疑問である。愛知万博では、食器やゴミ袋に環境に優しいものが使われるようになって、何も気にすることなく容器を捨てるたいひことができた。これが堆肥たいひになると思えば、使い捨てることうすの後ろめたさを薄うすれさせてしまったのだ。技術が道徳の代行をしてくれたためである。

3 本来、地球に優しいと自ら感じたことを自発的に実行し、生活まで変えていこうとする覚悟ごが重要なのである。そのような意識は人間が持つべき「道德」として定着しつつある。道德と言えは堅苦かたしいが、人間としての行動の規範はんのことで、そのような発想（環境倫理りんというべきかもしれない）を身につけた人間が増えていくことこそが人類の未来への希望とも言えるだろう。

4 ー、そのような個人の道德心を涵養かんようするのではなく、技術によって問題が発生しないように前もって手を打っていくことが増えている。それによって表面的には道德が機能しているかのような状態が作り出されるのである。

（池内了『科学の落とし穴』より）

（注） ○愛知万博——二〇〇五年に愛知県で開かれた国際博覧会。

○謳った——はっきりと主張した。

○肩代わり——代わって引き受けること。

○涵養——ゆっくりと養い育てること。

(1) ①段落・②段落を要約した次の文章のそれぞれらんの空欄にあてはまる言葉を書きなさい。

① 愛知万博では、()のおかげで
()を大幅はばに削減さくできた。愛知万博らしい成果だ。

② 筆者は、()が()の
()いだをしてよいのか、と
いう()を抱いだいている。

(2) 次の条件に従って、**3**段落・**4**段落を要約しなさい。

〈条件〉

- ・要約文は一文とする。
- ・**4**段落の要約文に「それ」という言葉を使ってはならない。

3

4

(3) 空欄 **1** に入る最も適切な言葉を次のア～エから選び、記号で答えなさい。

- ア、だから イ、つまり
ウ、ところが エ、たとえば